

1	利用者アンケート	23
2	道民ワークショップ	27
3	事業者・専門家ヒアリング	32
4	ボランティアガイドアンケート	35
5	インターネット道民ニーズ調査	36
6	赤れんが庁舎実証イベント	39

1 利用者アンケート

1-1 調査の目的

今後の活用方策の検討に当たっての参考とすることを目的に、赤れんが庁舎の来館者に対し、来館の目的や各展示室の感想、施設機能などについてのアンケート調査を実施した。

1-2 調査項目

- ・ 赤れんが庁舎の認知度
- ・ 赤れんが庁舎への来館目的
- ・ 赤れんが庁舎へのアクセス
- ・ 赤れんが庁舎での滞在時間
- ・ 赤れんが庁舎と展示内容の印象
- ・ 希望する展示や設備、催し
- ・ バリアフリー化についての意見
- ・ 赤れんが庁舎への意見・要望 ほか

1-3 調査の方法

- ・ 調査対象 赤れんが庁舎の来館者
- ・ 調査方法 対面依頼による自記式調査
- ・ 調査期間 平成 28 年 2 月 1 日～15 日
- ・ 調査実施機関 エヌ・ティ・ティ北海道テレマート株式会社
- ・ 標本数 1, 228 サンプル（国籍/日本:626 サンプル 外国籍:602 サンプル）

1-4 調査結果の概要

赤れんが庁舎のアクセスについて、70.3%の回答者が東門（正門）を通過して来館していることが明らかになっている。来館者は赤れんが庁舎に向かって直進し、庁舎の正面を望みながら入館することで、赤れんが庁舎に対するイメージもより鮮明で印象的なものになっていると考えられる。

赤れんが庁舎に対する「全体的な印象」の評価について、97.5%が大変良い又は良いと回答しており、（肯定的な結果が出やすい）対面式の回答結果であることを踏まえても、来館者は庁舎に対して好印象を持っていることが分かる。このことから、今後も赤れんが庁舎は観光資源として非常に高いポテンシャルを有していることがうかがえる。

また、来館者の目的の大半（複数回答）は「建物内部の見学（61.2%）」と「外観を見に来たついで（39.0%）」である。見学の意向を持つ来館者を持続的に迎えるためには、見学目的を叶える機能を保ち続け、充実させていくことが求められる。「ついで」目的の来館者については、来館前後の行動パターンを把握し、館内へ入るに至った「ついで」の目的に見合った機能を保持することが求められる。

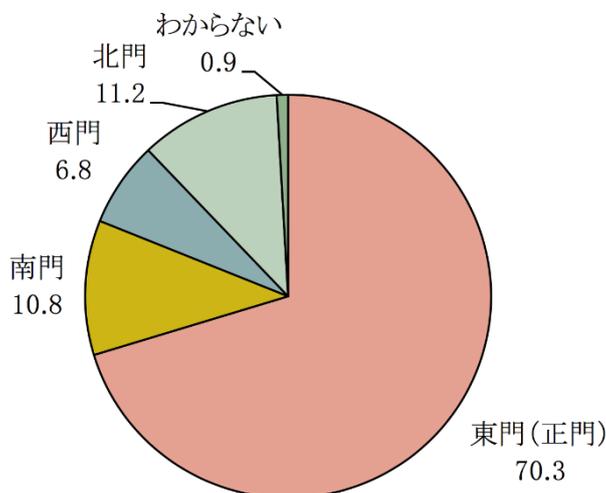
展示内容に対する要望（複数回答）としては、文化的な内容への期待と同程度に、北海道の自然や景観に対する期待が高く、展示の充実が求められる。要望は「特にない」とする来館者が6.5%であることは、93.5%の来館者は何らかの要望があることを示しており、庁舎の全体的な印象に対しては非常に高い評価をしつつも、さらなる期待を感じていることがうかがえる。日本人来館者に比べ、外国人来館者には絵画等の展覧会に対する期待が高いことを示す結果も出ており、リニューアルに当たっては、北海道にゆかりのある作品などの展示を視野に入れた機能を含めることが求められる。

1-5 調査結果（抜粋）

1 赤れんが庁舎へのアクセス

1-1 赤れんが庁舎へはどこを歩いてこられましたか？（複数回答可）

全体

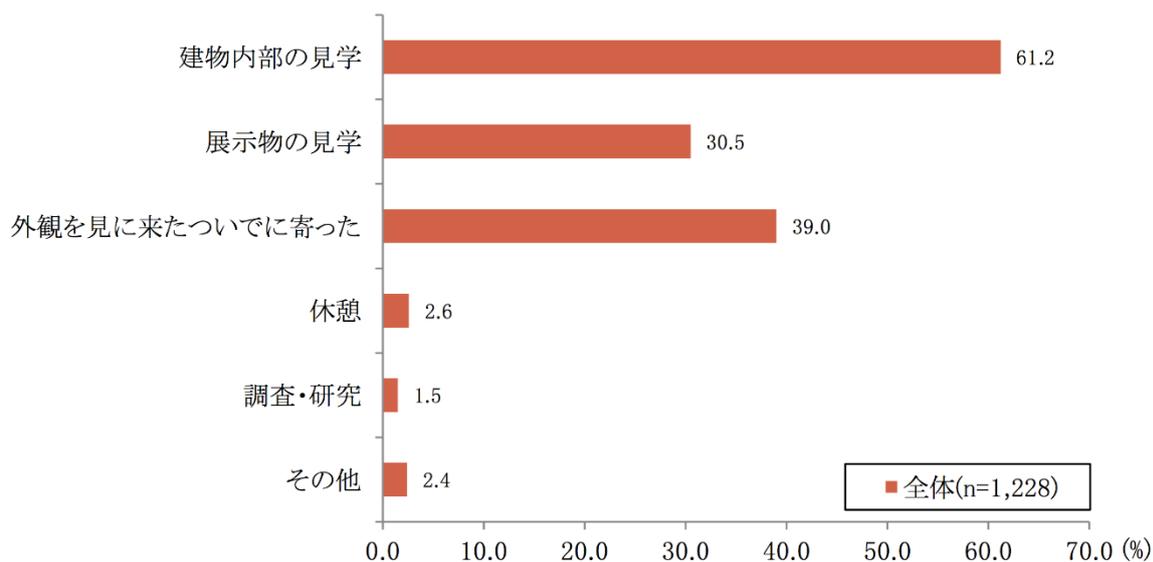


n=1,228

来訪者の全体では、「東門(正門)」(70.3%)と答えた方の割合が最も多く、次いで「北門」(11.2%)、「南門」(10.8%)の順となっている。

2 入館の目的

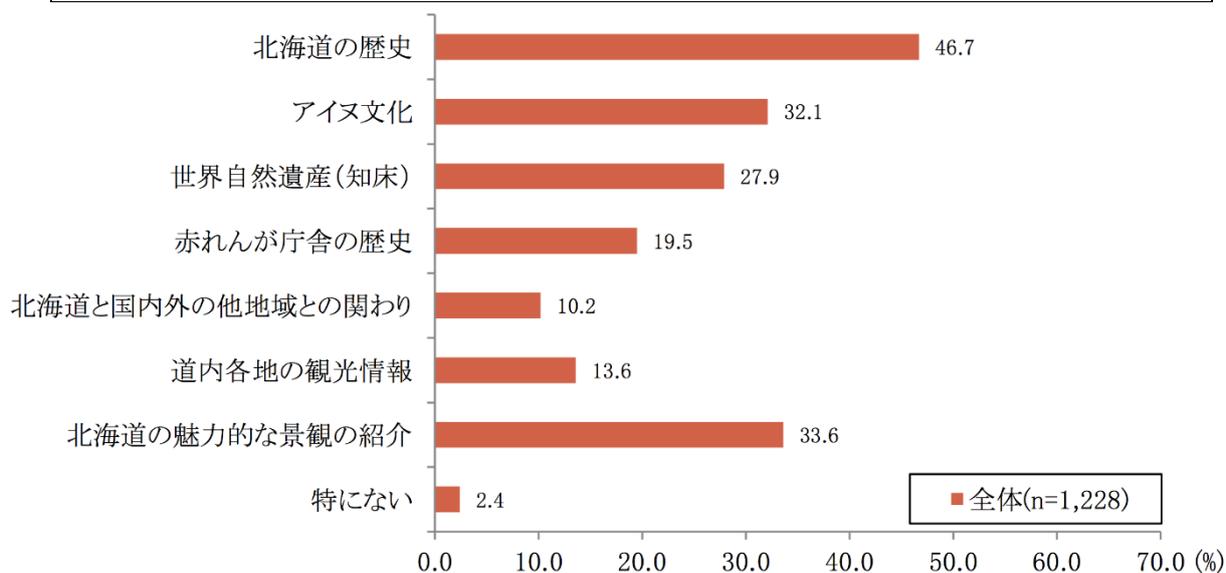
2-1 入館の目的は何ですか？（複数回答可）



来訪者の全体では、「建物内部の見学」(61.2%)と答えた方の割合が最も多く、次いで「外観を見に来たついでに寄った」(39.0%)、「展示物の見学」(30.5%)の順となっている。

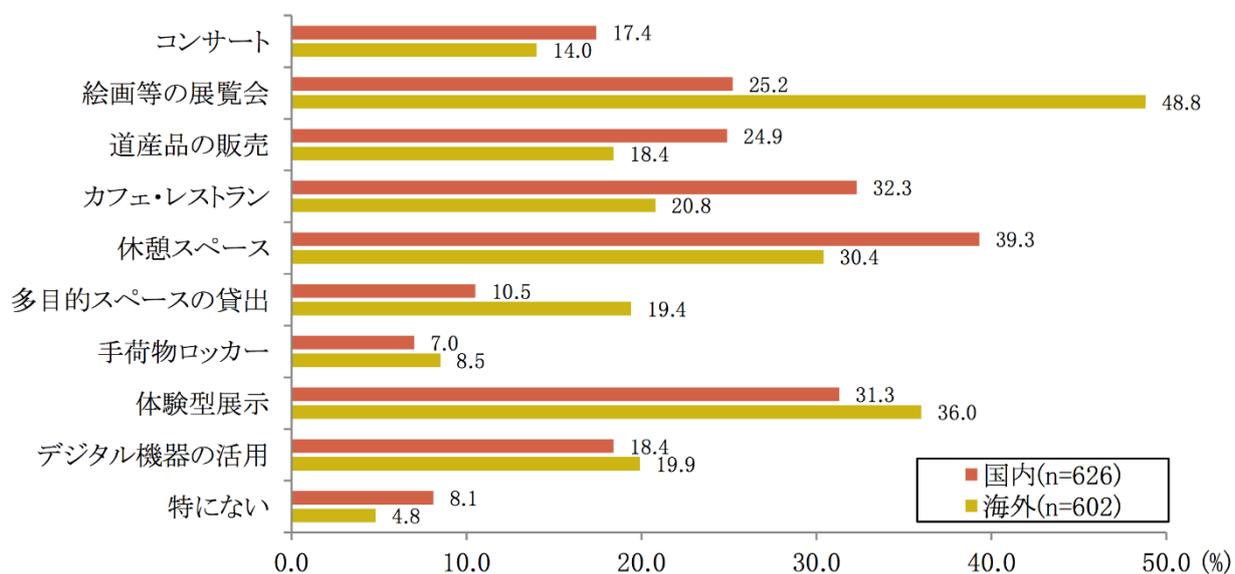
3 希望する展示や設備、催し

3-1 北海道の歴史文化・観光情報について、今後充実させて欲しい展示物は何ですか？
(複数回答可)



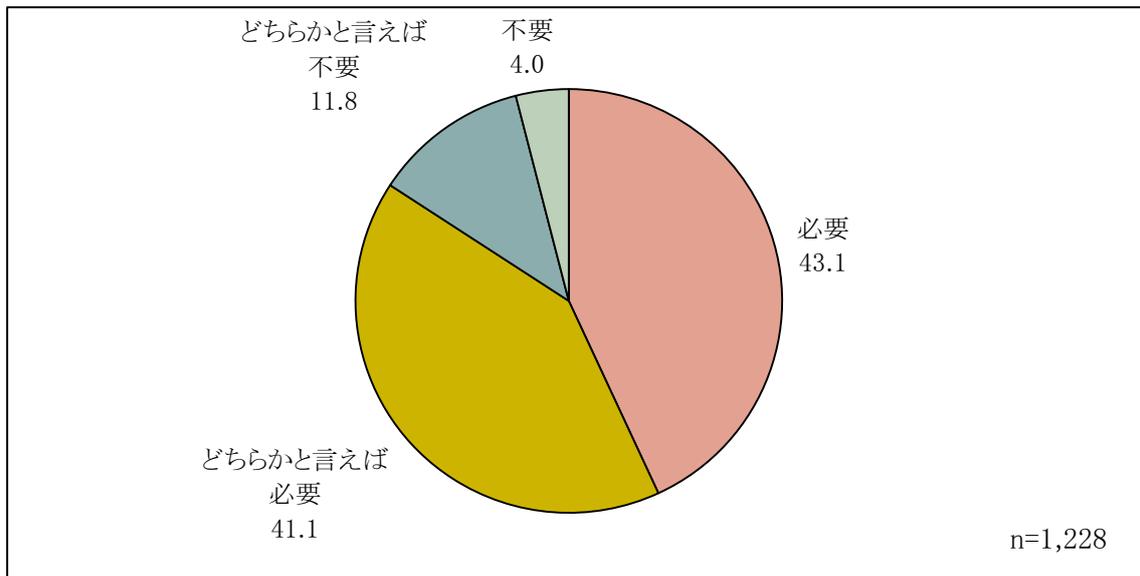
来訪者の全体では、「北海道の歴史」(46.7%)と答えた方の割合が最も多く、次いで「北海道の魅力的な景観の紹介」(33.6%)、「アイヌ文化」(32.1%)の順となっている。

3-2 赤れんが庁舎の活用方法・機能・展示方法について、今後充実させて欲しい物は何ですか？(複数回答可)



来訪者の全体では、「絵画等の展覧会」(36.8%)と答えた方の割合が最も多く、次いで「休憩スペース」(34.9%)、「体験型展示」(33.6%)の順となっている。

3-3 北海道では、体の不自由な方やご高齢の方が入館しやすくなるように赤れんが庁舎のバリアフリー化（エレベーターやスロープの設置）を検討していますが、必要性を感じますか？（ひとつだけ）



来訪者の全体では、「必要」(43.1%)と答えた方の割合が最も多く、次いで「どちらかと言えば必要」(41.1%)、「どちらかと言えば不要」(11.8%)の順となっている。「必要」「どちらかと言えば必要」を合わせると84.2%となっている。

2 道民ワークショップ

2-1 ワークショップの目的

赤れんが庁舎リニューアル基本指針策定に向けて、道民一般から広く意見を徴収し、基本指針に反映させることを目的に、道民ワークショップを開催した。

2-2 実施方法

ワークショップは、道内4箇所（函館、網走、旭川、札幌）で開催した。会場の選定に当たっては、赤れんが庁舎リニューアルに向けて各施設の利用者から示唆を得ることを目的として、歴史的建造物が活用されている施設を会場とした。各会場の日程を含む詳細は、下記のとおりである。

参加者をグループに分け、前半のディスカッションではそれぞれの会場である施設について、後半は「赤れんが庁舎」について話し合った（札幌会場は「赤れんが庁舎」についてのみ）。

会場	日程	利用施設	参加人数	ディスカッションのテーマ
函館	9月24日 (土)	函館市地域交流まちづくりセンター	16名	【函館市地域交流まちづくりセンター】 ・今満足している点 ・不足している機能 ・ユニークな提案 【赤れんが庁舎】 ・欲しい機能 ・道内の市町村や文化関連施設との連携 ・ユニークな提案
網走	10月1日 (土)	博物館 網走監獄	12名	【博物館 網走監獄】 ・今満足している点 ・こんな展示・使い方があったらよい ・ユニークな提案 【後半：赤れんが庁舎】 ・コンセプト ・欲しい機能 ・道内の市町村や文化関連施設との連携 ・ユニークな提案
旭川	10月8日 (土)	旭川市市民活動センターCoCoDe	22名	【市民活動センター】 ・今満足している点 ・こんな使い方であればもっと利用したい ・ユニークな提案 【後半：赤れんが庁舎】 ・コンセプト ・欲しい機能 ・道内の市町村や文化関連施設との連携 ・ユニークな提案
札幌	10月9日 (日)	赤れんが庁舎	45名	【赤れんが庁舎】 ・コンセプト ・欲しい機能 ・道内の市町村や文化関連施設との連携 ・ユニークな提案

2-3 各会場におけるワークショップの開催概要

(1) 函館会場（函館市地域交流まちづくりセンター）

大正12年に元丸井大丸デパートとして建造された歴史的な建物。「市民交流やNPOなど市民活動の支援、観光案内をはじめ地域情報の発信を通じ、函館地域のコミュニケーションやまちづくり

活動をサポート」するために設立され、情報発信スペース、カフェ、貸しオフィススペース、貸し会議室、ギャラリーなどがある。

ア 函館市地域交流まちづくりセンターについて

「今満足している点」については、歴史的な建築が持つ美しさや雰囲気と、適切な管理の下でそれらが維持されていることが高く評価された。また、活用スペースが安価でコミュニティに開かれている点についても好意的なコメントが寄せられた。

「不足している機能」については、子供が遊ぶスペースや、親子で遊べるスペースなどが挙げられた。

「ユニークなアイデア」については、着物などの町並みの雰囲気に合った貸衣装、屋上の活用、保育所、結婚相談所などが提案された。

イ 赤れんが庁舎について

「コンセプト」については、道内各地との連携や地方に行ってもらえる仕組みを持つこと、地域住民や道民が楽しめる施設であること、子どものためのスペースがあることなどが提案された。

「欲しい機能」については、飲食、歴史展示、観光情報拠点、結婚式などの催事で使用できる多目的スペースが提案された。

「道内の市町村や文化関連施設との連携」については、農業など各地の生産者をつなげる仕組み、テレビ局のサテライトとして地域の情報を放送する機能、道内の大学のサテライト機能などが提案された。

「ユニークな提案」については、八角塔の活用（上がる、天文台、からくり時計など）、水族館、温泉（足湯）、プロジェクションマッピングなどが挙げられた。

函館会場の開催の様子



(2) 網走会場（博物館 網走監獄）

明治期に建設された網走刑務所の施設を移築し、保存公開している。東京ドーム3.5個分に相当する広大な敷地で歴史的建造物が展示されており、建物の内外には当時の様子を再現するための数多くのマネキンも展示されている。レストランでは「監獄食」として現在の網走刑務所で収容者が食べている食事を再現したメニューも提供されるなど、ユニークな公開展示が展開されている。

ア 博物館 網走監獄について

「今満足している点」については、マネキンの造形や展示方法、建物の清潔感や明るさ、監獄定食等のユニークさなどが高く評価された。

「こんな展示・使い方があったらよい」というテーマについては、夜間の展示、独房体験、脱獄関連のイベントや寸劇、看守の怒号など音で楽しめる展示・サウンドスケープ、囚人や看守の貸衣装、入所プロセス体験、プロジェクションマッピング、野外フェス会場、たくさんのマネキンの中から特定の囚人を捜すイベントなど、様々なアイデアが挙がった。

「ユニークなアイデア」については、宿泊体験、映画俳優のマネキン設置、謎解きゲーム、コスプレ撮影スポット、監獄定食を囚人の慣例に倣って受け取るなどが挙げられた。

イ 赤れんが庁舎について

「コンセプト」については、家と学校以外の3つ目の場所（サードプレイス）、子どもをターゲットにする、道民が道について知る場所、まず道民が楽しみ、それによって観光客が来くなるような施設にする、道の情報発信場所にするなどが提案された。

「欲しい機能」については、飲食、歴史展示、観光情報拠点、催事などで使用できる多目的スペースなど函館会場と同様の内容が提案されたほか、現代アートや道内アーティストの作品展示、コンサートホールなど文化施設としての利用方法が提案された。

「道内の市町村や文化関連施設との連携」については、道内の逸品の販売、各市町村のライブ映像配信、道内すべての施設のチケットを販売する総合チケットセンター（割引券も販売）などが提案された。

「ユニークな提案」については、昔の知事の生活や仕事体験、赤れんが限定ポケモンGO、開拓ゲーム、貸衣装、写真スタジオ（コスプレ含む）、市町村長とテレビ電話、前庭の樹木整理、動物園的に動物がいるような環境、宿泊体験、託児所などが挙げられた。

網走会場では、会場が展示施設であったことが影響したためか、文化施設としての様々な活用方法や、体験、ゲームなど参加型で空間を楽しめるような提案が多くなされた。

網走会場の開催の様子



(3) 旭川会場（旭川市市民活動センターCoCoDe）

明治時代に旧国鉄の工場として建築された煉瓦造の建物。市民活動に関する情報の収集・提供や活動相談、講座・研修会等の開催による学習機会の提供など市民活動を支援している。

ア 旭川市市民活動センターについて

「今満足している点」については、安価で使用できる点、大小の部屋が用意されている点、スタッフの対応、コンサートなど様々なイベントに利用されている点などが挙げられた。

「こんな使い方だったらもっと利用したい」というテーマについては、夜間の屋外の利用、ペット連れの利用、カフェ機能の充実、キッズコーナーの充実、駐車場や入り口のサイン整備、木工や模型の展示などが挙げられた。

「ユニークなアイデア」については、（隣接する）科学館との連携、プロジェクションマッピング、保育所、建物の歴史の展示充実などが挙げられた。

イ 赤れんが庁舎について

「コンセプト」については、道民・観光客の両方を対象にする、アイヌ民俗を含め、歴史と文化を再認識する場にする、北海道のデザインを活かす、道内の子どもが一度は訪れる場所にする（遊びながら北海道について学ぶ）、バリアフリー化などが提案された。

「欲しい機能」については、飲食、歴史展示、観光情報拠点、催事、現代アートや道内アーティストの作品展示など、網走会場と同様の内容が提案された。

「道内の市町村や文化関連施設との連携」については、道内の逸品の販売、道内各地のイベント・展示などの情報が分かるコンシェルジュ機能、各市町村のアクティビティを紹介し、各市町村での本格的な体験に誘う機能などが提案された。

「ユニークな提案」については、赤れんが庁舎ガイドツアー（八角塔含む）、前庭の活用（ビアホール、池でスケート、かまくらでアイスバー）、子供の職業体験施設、水族館、道産家具の使用、五芒星をいかしたデザイン・ロゴ、騎馬警察、迎賓室、各市町村のスタンプラリー、プロジェクションマッピングなどが挙げられた。

旭川会場では、「子ども」を対象としたアイデアが多く提案された。そのほか、道産家具にこだわった設えにすることや、五芒星の活用など、元々道が有する価値を活かしながら空間をデザインすることも提案された。また、旭川においても「前庭」の活用について、ビアホール、池でスケート、かまくらでアイスバーなど様々なアイデアが得られた。

旭川会場の開催の様子



(4) 札幌会場（赤れんが庁舎）

「コンセプト」については、道民・観光客の両方を対象に（誰でも歓迎）、家と学校以外の3つ目の場所（サードプレイス）、歴史を知り、未来を考える場、北海道ツーリズムのヘッドクォーター、デザインセンター（暮らしなどを含めた北海道のデザインを広める仕組み）、道のシンボル、道民の誇り、子供も楽しめる施設、格式の高い雰囲気はそのままかつ誰でも利用しやすい施設、バリアフリー化などが提案された。

「欲しい機能」については、飲食、歴史展示、観光情報拠点、催事、現代アートや道内アーティストの作品展示、コンサート会場など、他会場と同様の内容が提案されたほか、夜間の開放や休憩所など、観光客に配慮した提案があった。

「道内の市町村や文化関連施設との連携」については、道内の逸品の販売、各市町村の情報発信／各市町村同士の交流・PR機能、コアミュージアム（本物は展示せず、道内の様々な自然・文化要素の解説や施設の紹介を行い、地域に誘う機能）、各地方の美術館、博物館などの割引券を購入などが提案された一方で、少数意見ではあったが、179市町村に拘りすぎる必要はないという意見も挙がった。

「ユニークな提案」については、大学の出前講義、高速代、ガソリン代、レンタカー代の割引サービス、シティキャンプ、温泉、小屋裏へ上がる螺旋階段をエスカレーターに、南北の通路の活用、赤れんが庁舎ガイドツアー（八角塔含む）、スポーツジム、展望台、前庭に牛などを連れてきて酪農をアピール、冬でも遊べる子ども基地、ものづくりの場など、様々な視点からのアイデアが得られた。

札幌会場では、他の3会場と比べて「まず道民のため」というよりも「誰でも楽しめる」施設であることが提案された。その一方で、各市町村同士が交流したりPRしたりできる場や、網走会場と同様に、道内の文化関連施設の割引券を買えるようにするという連携方法も提案された。さらに、赤れんが庁舎を実際に見学した後のワークショップであったため、「建築」の価値を理解するための「ガイドツアー」や「建築の良さを感じられる空間としてのコンサートホールやギャラリー」が提案された。

札幌会場の開催の様子



3 事業者・専門家ヒアリング

3-1 ヒアリングの概要

それぞれの専門的見地から見た赤れんが庁舎の課題とリニューアルに向けたアイデアなどを聴取することを目的に、事業者・専門家のヒアリング調査を実施し、それぞれの専門的見地から見た赤れんが庁舎の課題とリニューアルに向けたアイデアなどを聴取した。

ヒアリング対象者は、観光、宿泊、出版、飲食、まちづくり、大学、文化関係の分野から、赤れんが庁舎の今後の将来像を検討するに当たり、有益な意見を得ることが期待できる事業者・専門家（9件）を選定し、面談式のヒアリングを行った。

(1) ヒアリングの対象とした事業者・専門家

- | | |
|-----------|--------------------|
| ・ 文化事業分野 | 北海道博物館 |
| ・ 観光分野 | 北海道観光振興機構 |
| ・ 観光分野 | JTB 国内旅行企画 |
| ・ 宿泊分野 | 札幌グランドホテル |
| ・ 飲食分野 | サッポロビール |
| ・ メディア分野 | O. tone（株式会社あるた出版） |
| ・ まちづくり分野 | 札幌駅前通りまちづくり株式会社 |
| ・ まちづくり分野 | ものごころコミッティ |
| ・ 学識分野 | 北海道大学観光学高等研究センター |

(2) ヒアリングの項目（共通項目を中心に抜粋）

- ア 北海道観光、札幌観光の成果と課題
- ・ 期待される北海道観光、札幌観光の姿
 - ・ 来道者（国内）の最近の傾向と将来展望
 - ・ インバウンド 最近の傾向と将来展望
- イ 観光目的地としての赤れんが庁舎現況
- ・ 期待される赤れんが庁舎像
 - ・ 各施設と赤れんが庁舎の関係性
- ウ 施設機能のリニューアルについて
- ・ 期待されるターゲット「だれに向けて」に重点を置くと良いと思うか、その理由
 - ・ 期待される施設機能 充実させて欲しいものは何か、その理由
- エ 今後の連携について
- ・ ソフト面、ハード面で連携できる可能性

3-2 ヒアリングにおいて抽出されたアイデア（各論）

(1) 北海道博物館 【文化事業分野】

北海道を代表する文化財建築物の一つとしての価値を大切にしたい。建築物の保存、資料の展示については、そのものの価値を損なわないよう配慮が必要。

自然、文化、歴史を市民に伝えていく目的に共通点も見出せるため、ミュージアムとしての連携は前向きに考えられるべき。

(2) 北海道観光振興機構 【観光分野】

北海道さっぽろ「食と観光」情報館と共に、北海道（札幌）の観光情報の玄関口として連携が期待される。JR 札幌駅構内の情報館と、中心市街地の赤れんが庁舎では、来館者の客層も異なり、観光客への情報提供に大きな効果をもたらすと予測され、2大拠点となり得る。増加するインバウンド観光客や、多角化する観光ニーズに適切に応じるため、双方で運営面の連携、工夫、努力が必要である。

(3) JTB 国内旅行企画 【観光分野】

赤れんが庁舎のリニューアルは、付近で既に始まっている地区全体の魅力向上、ブランド力の向上に対し寄与すると予測される。赤れんが庁舎とその周辺が持っている都市景観、雰囲気、地区の特性を發揮できるような仕掛けが期待される。

札幌に来てから北海道での観光滞在を考える観光客に対し、様々な要望を伺ってスケジュールやプランを検討し、アレンジを行うコンシェルジュ機能の付与ができれば、札幌市内における観光サービスの充実に寄与すると考えられる。

(4) 札幌グランドホテル 【宿泊分野】

赤れんが庁舎における宿泊機能については設備的に難しいが、イベント的に期間限定でホテルのように使ってみるのは面白いかもしれない。

展示については、テーマが明確だと宿泊客にも紹介しやすい。また、訪問者が自分の文化圏との比較ができる展示内容だと分かりやすい。

(5) サッポロビール 【飲食分野】

サッポロビールと赤れんが庁舎は一直線で結ばれ、工場から道庁にビールを出荷していた歴史もあって、赤れんが庁舎にも特別な思いを持っている。

飲料メーカーとして、様々な分野の企業や店舗にネットワークを有しているが、赤れんが庁舎も、道内の企業間の連携によって新しい観光文化施設となって欲しい。

(6) 0. tone（株式会社あるた出版） 【メディア分野】

小さくても有益な情報が行き交い、好奇心や観光意向を想起させるようなコミュニケーションが生まれる施設となることが期待される。0. tone の方針とも近いが、道内の隠れた名産品をテーマに沿って紹介するなど、ある程度まで目的を絞った選択型の展示紹介の企画があると、持続的な集客効果もあるといえる。雑誌媒体として、情報発信に係る連携は可能である。

(7) 札幌駅前通まちづくり株式会社 【まちづくり分野】

札幌駅前の象徴的な建築物として、地区の景観と空間を創造していく際の基調となる。赤れんが庁舎への眺望も地区にとって重要な要素であり、（同社が管理する）札幌市北3条広場においても、赤れんが庁舎の景観に配慮している。駅前のコミュニティだけではなく、行き交う札幌市民、北海道民のシビックプライドの醸成にも貢献する施設になれるよう、まちづくりの観点から協力していきたい。

(8) ものごころコミッティ 【まちづくり分野】

アーティストの創造力を發揮する空間（工房・展示ショールーム）や、市民活動にも使える空間を設け、その運営も市民が行うような自由度の高い文化施設となって欲しい。赤れんが庁舎から北海道のアーティストのメッセージを発信し、北海道の文化力を示すことができれば、北海道の新たなブランド力構築にもつながる。

(9) 北海道大学観光学高等研究センター 【学識分野】

文化財建築物でありながら、創造的な活用が行われる施設のモデルになるような試みが期待される。既存施設との差別化を図り、従来の考え方、法律等の縛りを乗り越えて、思い切った挑戦をしたらどうか。北海道、札幌に来たらまず訪ねるような観光ポータルとしての位置付けも求められ、200万人が訪れるかも知れないという覚悟を持って考えていく必要がある。

3-3 ヒアリングにおいて抽出されたアイデアのまとめ

(1) コンセプトについて

- ・道民、国民、外国人観光客を含むすべての人が楽しめる施設にする
- ・北海道を“世界”へ向けて発信する
- ・札幌市北3条広場を含む周辺地域が赤れんが庁舎・前庭と一体となって地区のイメージをつくり、様々な発信をする
- ・赤れんが庁舎周辺の賑わいをもっと可視化する
- ・赤れんが庁舎だからこそできることをする

(2) 欲しい機能について

- ・飲食施設の機能を設ける
- ・歴史展示の機能を設ける
- ・結婚式などで使える格式ある多目的スペースの機能を設ける
- ・現代アート展示、道内アーティストの作品展示の機能を設ける
- ・北海道を知るための機能を設ける
- ・ブックカフェなどライブラリーとしての機能を設ける

(3) 道内の市町村や文化関連施設との連携について

- ・連携促進、理解促進を図るブース、コンシェルジュを置く
- ・道産品（高品質商品）の紹介、販売をする
- ・情報拠点としてのミュージアム機能を持たせる、道内全文化関連施設チケットの割引券を販売する

(4) ユニークなアイデアについて

- ・赤れんが庁舎前庭でアルコールを含むカフェを運営する
- ・宿泊施設、迎賓室関連の機能を設ける
- ・ものづくりの場としての工房機能を設ける
- ・前庭の自然環境のあり方を検討し直し、景観形成を行う

4 ボランティアガイドアンケート

4-1 調査の目的

赤れんが庁舎のリニューアルの検討に当たり、館内の展示を熟知しており、来訪者に対するガイドを通じて観光客のニーズを把握できているボランティアガイドからの意見を参考にすることを目的に実施した。

4-2 調査項目

- ・ 欲しい機能
- ・ 道内の市町村や文化関連施設との連携
- ・ ユニークなアイデア
- ・ その他

4-3 調査の方法

- ・ 調査対象 赤れんが庁舎で活動しているボランティアガイド
- ・ 調査方法 ボランティアガイドを派遣している札幌商工会議所及び一般社団法人北海道道友会を通じ、アンケート票を配布・回収
- ・ 調査期間 10月から11月にかけて
- ・ 調査実施機関 北海道
- ・ 標本数 52

4-4 調査結果概要

ボランティアガイドからは、改装後の機能に関する様々な提案に加えて、現状の展示の改善点や観光客からのニーズに関する具体的な提案がなされた。

「欲しい機能」については、飲食、歴史展示、観光情報拠点などのほか、多言語表示や無料Wi-Fiサービス、スマートフォンの充電器の設置など、現在の観光客からの具体的なニーズに対応するための提案がなされた。

「道内の市町村や文化関連施設との連携」については、道内の逸品の販売、道内各地へのアクセスとイベント・展示などの情報が分かるコンジェルジュ機能、催事、道内博物館の紹介、各市町村によるイベント開催、現代アートや道内アーティストの作品展示などが提案された。

「ユニークなアイデア」については、ご当地アイドルによるイベント、初音ミクやフランチェスカなど道内発のキャラクター紹介、プロジェクションマッピング、スタンプラリーや謎解き形式の館内探索、赤れんが庁舎のキャラクター制作、ボランティアガイドによる講座開講などのアイデアが提案された。

そのほか、現在の展示やシステムの改善に関する提案も多くあった。具体的には、道産品の紹介コーナーにおける工芸品展示、ボランティアガイド用の水分補給設備、ガイドの予約方式の導入、記念室の静態展示の改善、単なる歴史展示から楽しめる展示への改善、ボランティアガイドなどによる出迎えなどが提案された。

5 インターネット道民ニーズ調査

5-1 調査の目的

「赤れんが庁舎リニューアル基本指針」策定の一環として、赤れんが庁舎の将来像等について道民の意見を聞き、具体的な活用方策に反映させていくことを目的に実施した。

5-2 調査項目

- ・ 道内旅行の頻度
- ・ 赤れんが庁舎の認知度
- ・ 赤れんが庁舎への来館動機
- ・ 展示内容の印象
- ・ 外観の印象
- ・ 希望する展示や設備、催し
- ・ 赤れんが庁舎への意見・要望 ほか

5-3 調査の方法

- ・ 調査地域 北海道内
- ・ 調査対象 モニター 850名
- ・ 調査方法 インターネット調査
- ・ 調査期間 平成29年1月27日～2月1日
- ・ 調査実施機関 NTT ソルコ&北海道テレマート株式会社
- ・ 標本数 701 サンプル (全て日本国籍)
- ・ 回答率 82.5%

5-4 調査結果の概要

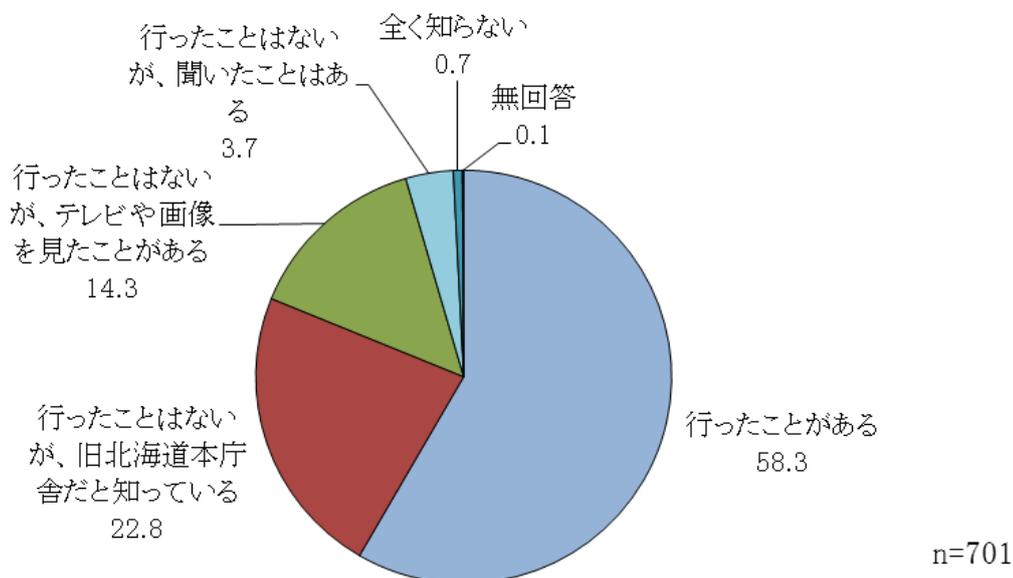
赤れんが庁舎の認知度を問う質問に対して、回答者の99.1%が何らかの形で認知していることが分かった。しかし、赤れんが庁舎の外観に対する印象は「大変良い(94.4%)」とする評価を得ている一方で、展示内容の印象については、良い/良くないの「どちらでもない」が42.9%を占めており、建物に比べ、内部の展示については印象に残らないものという評価であると見ることができる。

その一方で、赤れんが庁舎に希望する展示や設備、催しに関する問いに対する回答では、「北海道の素材を活かした飲食サービスコーナー」や「北海道の産業、商品が紹介され、来館者が体験、購入できるコーナー」が上位に挙げられており、これらを整備することで、今後、入館後の満足度を上げることができると考えられる。

5-5 調査結果（抜粋）

1 赤れんが庁舎の認知度

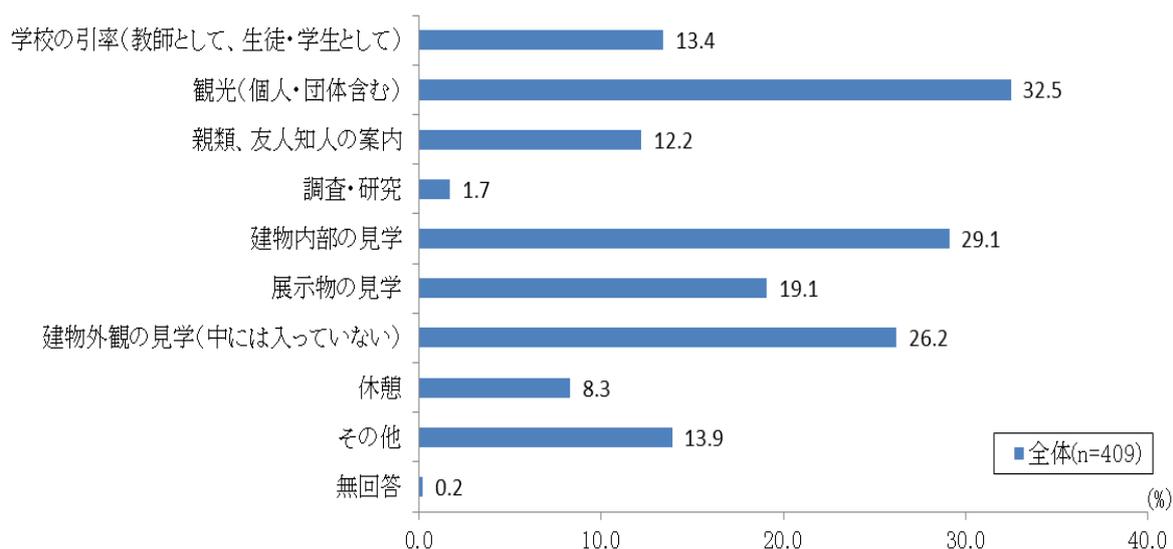
赤れんが庁舎のことをご存知ですか？



認知度は99.1%となり、道民のほとんどが赤れんが庁舎について程度はあるものの認知していることがわかる。

2 赤れんが庁舎への来館動機

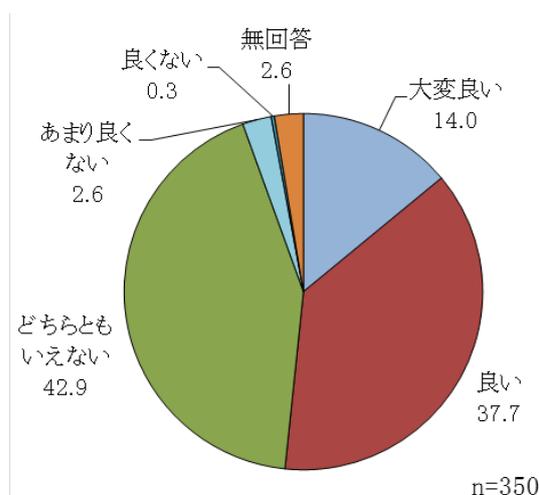
(赤れんが庁舎に行ったことがあると回答した者に質問)
来館された動機はどのようなものですか？(複数回答可)



赤れんが庁舎へ行ったことがあると回答した409名に、来館された動機について聞いたところ、最も多かったのは「観光(個人・団体含む)」32.5%だった。

3 展示内容の印象

展示内容の印象はいかがですか？

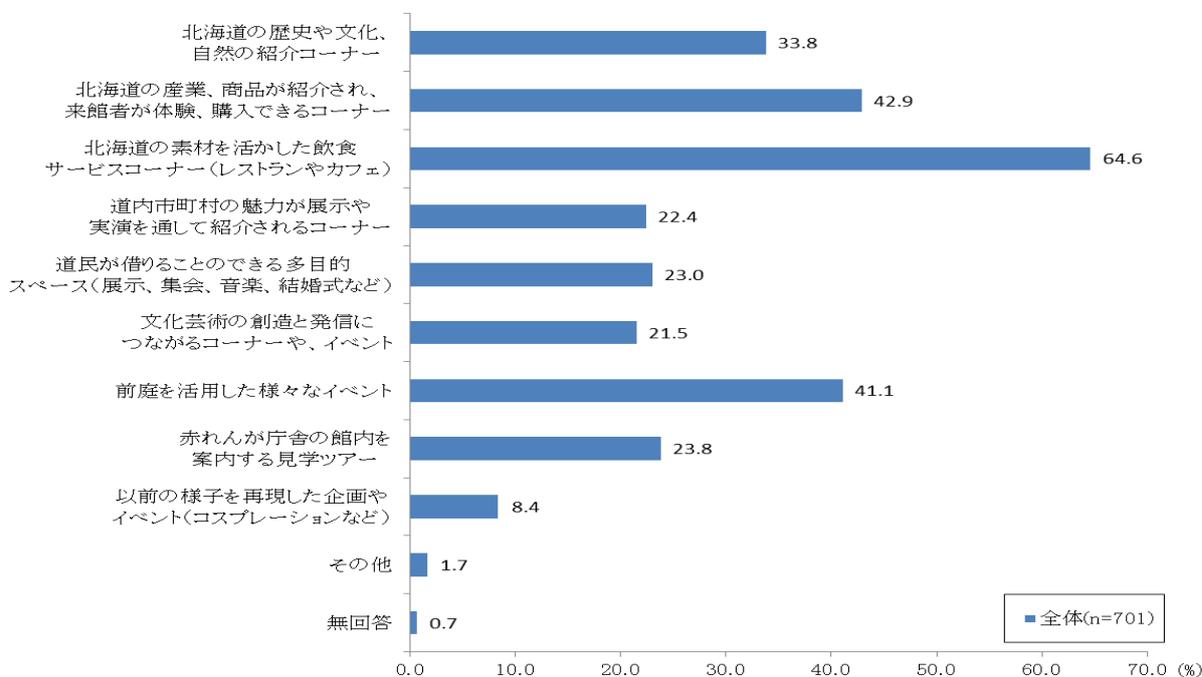


来館の目的について「建物外観の見学（中には入っていない）」とだけ回答した方を除いた350名に、展示内容の印象を聞いたところ、「大変良い」14.0%、「良い」37.7%となり、好印象を持った方の割合は51.7%と半数を超えた。一方、「あまり良くない」2.6%と「良くない」0.3%は低く、悪印象を持った方の割合は合わせて2.9%にとどまっている。

ただし、「どちらともいえない」も42.9%と4割を占めている。

4 希望する展示や設備、催し

赤れんが庁舎に、もしこれがあれば行きたくなるというものは何ですか？（複数回答可）



赤れんが庁舎に、もしあれば行きたくなるような展示や設備、催しについて聞いたところ、「北海道の素材を活かした飲食サービスコーナー（レストランやカフェ）」が64.6%と6割を超えて最も多かった。次いで「北海道の産業、商品が紹介され、来館者が体験、購入できるコーナー」が42.9%、「前庭を活用した様々なイベント」が41.1%、「北海道の歴史や文化、自然の紹介コーナー」が33.8%と多くなっている。

6 赤れんが庁舎実証イベント

6-1 実施の目的

赤れんが庁舎のリニューアル後の機能のひとつに「催事」があり、結婚式やレセプション、パーティなどの開催を想定している。

実際の運営に当たってはホテル等のケータリングの利用が想定される場所であるが、リニューアルに向け、冬期間の夜間における搬入経路や飲食物提供に係る施設面・運用面の課題を把握し、今後のリニューアルの詳細検討に活かすため、実証試験を行った。

6-2 イベントの概要

- ・ 開催日時 2017年2月3日（金）18:30-20:00（準備・撤収を含めて16:00-21:00）
- ・ 場所 赤れんが庁舎2階1号会議室（2階-③：眺望を活かした催事スペース）
- ・ 参加者 56名（民間企業の担当者及び道職員）
- ・ 内容 立食パーティ方式により、赤れんが庁舎リニューアル事業、北海道150年事業、道と民間企業との協働の推進について道から説明後、意見交流会。イベントに当たり、ケータリングによる飲食物を提供（札幌グランドホテル）。

6-3 実証イベントの総括・参加者アンケート結果

(1) 実証イベントの総括

実証試験の結果、資材等の搬入経路の課題、飲食物提供に係る施設面・運用面の課題を把握することができた。

搬入経路は、入館者との動線が重なることや、正面階段の勾配等を考慮し、赤れんが庁舎正面入口の利用を避けたほか、積雪のため、赤れんが庁舎の他の入口についても使用が困難であったことから、本庁舎地下1階駐車場から本庁舎地下通路を通じて赤れんが庁舎内に資材等を搬入した。赤れんが庁舎内においては、地下から会場である2階1号会議室まで手作業で運搬したが、重量物もあり、安全確保のため、人員と時間を要した。リニューアル後にエレベーターが整備されれば資材運搬にも利用できる可能性があるが、一般利用者の利用の支障とならないよう配慮が必要である。

飲食物の提供については、会場内にドリンクカウンターを設置したほか、料理の提供の準備スペースとして、廊下を挟んだ2号会議室を利用する必要があった。リニューアル後は他の部屋を準備等で使用することは難しいと考えられるため、会場内のスペース確保や、施設内の飲食スペースとの連携などを検討する必要がある。

そのほか、施設面、運用面の課題としては、既設の音響設備の状態が悪く、会場内へのアナウンス等が不明瞭となる場面が見られたほか、プロジェクターによる映像投影の場面では、室内の照度の細かい調整ができると、より効果的な演出等が可能となると感じられた。また、参加者からは、プレミアムな雰囲気を出すためには、床の材質（絨毯など）も考慮した方が良いとの意見もあった。会場の撤収に約1時間程度要したことから、赤れんが庁舎の開館時間や構内の車両の出入りの時間についても、リニューアル後の運営方法を踏まえて、延長等を検討する必要がある。

(2) 参加者アンケート結果

今回の実証イベント参加者からのアンケート（民間企業等の参加者17名から回答）によると、総合的な満足度について、「とても満足」「やや満足」が75%、このようなイベントを赤れんが庁舎で行うことについて「とても良い」が75%、リニューアル後、今回の会場（催事スペース）を使ってみたいですか？の問いに対し「使ってみたい」が87.5%と多く、総合的に高い評価をいただいた。

具体的には、「建物の魅力を再認識できた」「意見交換を赤れんが庁舎で行うことに意味がある」「夜の赤れんが庁舎は昼とは違う印象で良かった。」等の意見があった。

実証イベントの様子

